

福知山公立大学

大規模地震対応マニュアル

令和4年10月 第1版
令和6年 4月 第2版

はじめに

本マニュアルは、震度階級が「5強」以上の地震が発生した場合を想定している。

【震度5強の状況】

- ・非常に恐怖を感じる。
- ・棚にある食器類、本棚の本の多くが落ちる。
- ・たんすなどの重い家具が倒れることがある。
- ・変形によりドアが開かなくなることがある。

※震度階級ごとの状況は、別紙1のとおりである。

目 次

1. 事前の防災対策	1
(1) 日常的な防災対策	1
(2) 設備等の点検	1
(3) 情報収集・伝達体制の整備	1
(4) 研修・訓練の実施、啓蒙活動	1
2. 地震が発生した際の初動措置	2
(学生) 学内にいる場合・(教職員) 勤務時間内の場合	2
(学生) 学外にいる場合・(教職員) 勤務時間外の場合	2
3. 危機対策本部の設置、情報収集等	3
(1) 危機対策本部の設置	3
(2) 被害に関する情報の収集・伝達等	3
(3) 被害情報の共有・分析、緊急対策の検討等	3
4. 緊急対策の実施	4
(1) 学内の安否確認・避難誘導・人命救助等	4
(2) 施設・設備、ライフラインの確認	5
(3) 学外にいる学生・教職員の安否確認	5
(4) 帰宅困難者への支援	5
(5) 通信連絡手段の確保等	5
(6) 当面の学事日程、業務運営、勤務態勢の検討	5
(7) 被害発生時のマスコミ対応等	5
5. 【別掲】地震により火災が発生した場合の対応	6
(1) 発見・通報	6
(2) 初期消火等	7
(3) 避難方法	7
別紙1 震度階級の状況	8
別紙2 エレベーター非常時マニュアル	9
別紙3 安否確認システムの運用方法と学内体制	10
別紙4 災害用伝言ダイヤル171	14
別紙5 避難経路図・AED設置場所	15
別紙6 身近にあるもので行う応急措置	16

1. 事前の防災対策

(1) 日常的な防災対策

- 1) 家具等の転倒を防止する（L型金具を使用する等）。物品や書物が落下しないようする。
- 2) 重量物は高い所に置かず、低い場所に安定させる。
- 3) 薬品のガラス瓶など割れやすいものは強固なケースに保管し、仕切りの付いたトレーに入れる等、転倒防止の措置を講じる。
- 4) 咄嗟の場合、机やテーブルの下は一時避難場所となるので、物を置かず十分なスペースを空けておく。
- 5) 室内等の整理整頓を心がけ、安全な避難経路を確保する。非常口、防火扉（シャッター）、くぐり戸付近には物を置かない。
- 6) 狹い場所や、ブロック塀等の倒壊しやすい物には近付かない。

(2) 設備等の点検

- 1) 火災報知器（非常ベル）、屋内消火栓等は正常に作動するか、消火器具や避難器具に異常はないか、誘導灯のランプが切れていないか等の点検確認を行う。
- 2) 非常口、防火扉、防火シャッター等は正常に作動するか点検確認を行う。また、付近に障害物がある場合は撤去する。
- 3) 防火水槽の水位は適正か、付近に障害物がないか点検確認する。
- 4) 屋外消火栓付近や緊急車両が通行する道路に路上駐車がないか点検確認する。消防・救命活動は1分1秒を争うため、消防車・救急車等の大型車両の通行に支障がないようにする。

(3) 情報収集・伝達体制の整備

ラジオ、テレビ、電話、インターネット、安否確認システム等の必要な情報の収集手段と連絡網を整備する。

(4) 研修・訓練の実施、啓蒙活動

避難経路等を考慮した現実的・実践的な学生、教職員が参加する防災訓練を実施する。
実際に地震が発生した場合に対応するための初動マニュアルを学生、教職員に周知することによって、防災技術・知識を身に付けさせる。
その他、防災に関する講習会等を開催することにより、啓蒙を行う。

2. 地震が発生した際の初動措置

(学生) 学内にいる場合・(教職員) 勤務時間内の場合

- (1) 摆れが収まるまで机の下等に避難する。
- (2) 火元の始末を行う。
- (3) 扉を開けるなどして脱出経路を確保する。(扉や窓が開かなくなる可能性あり)
- (4) 摆れが収まつたら、頭部を保護(本などでも効果あり)し、転倒物、落下物、ガラス等に注意しながら安全な場所に避難する。余震の可能性があるので十分に注意する。
- (5) 避難する際は、学内のエレベーターを使用しない。
エレベーター非常時マニュアルは、別紙2を参照のこと。
- (6) 屋外にいる場合は、まず頭を覆って窓等のガラス、ブロック塀、電柱等から離れる。電柱の近辺では電柱自体の倒壊のほか、変圧器の落下や、電線のぶら下がりによる感電にも注意する。

(学生) 学外にいる場合・(教職員) 勤務時間外の場合

- (1) 学生及び教職員は、自分自身や家族の安全確保に注力する。
- (2) 学生及び教職員は、自分自身や家族の安全確保後、自分が居住している地域の災害状況を報道等により、確認する。
- (3) 福知山市内に居住している役員及び教職員は、危機的な状況を脱した後、安否確認システムから送信された安否確認メールに、自身の安否情報を入力して報告する。報告方法は、別紙3を参照のこと。安否確認報告後、安全確保を最優先しながら、大学の被災状況を確認するため、参集する。
- (4) 他の地域に居住している教職員は、自分自身の安否の状況について、安否確認メールにより報告し、その後の指示に従う。安否確認システムが使えない場合には、電話やFAX等により、一報を入れる。
- (5) 学生は、危機的な状況を脱した後、自分自身の安否の状況について、安否確認システムから送信された安否確認メールに、自身の安否情報を入力して報告する。報告方法は、別紙3を参照のこと。安否確認システムが使えない場合には、電話やFAX等により大学に連絡し、その後の指示に従う。
- (6) 電話回線混雑時には、災害用伝言ダイヤル171で離れた身内等に伝言が可能である。

【緊急時連絡先】

1. 学生の場合 => 学務課

TEL: 0773-24-7100, FAX: 0773-24-7170
E-mail: student@fukuchiyama.ac.jp

2. 職員の場合 => 総務・財務課

TEL: 0773-24-7100, FAX: 0773-24-7170
E-mail: general@fukuchiyama.ac.jp

3. 安否確認システムの運用方法と学内体制(別紙3参照)

4. 災害用伝言ダイヤル171(別紙4参照)

3. 危機対策本部の設置、情報収集等

(1) 危機対策本部の設置

災害発生後、副学長、事務局長、各課長は、学長室に参集し、危機対策本部の設置について、協議する。学長は、災害の発生状況等を踏まえ、全学的な対応が必要と判断した場合には、速やかに危機対策本部を設置する。以下の組織編成は一例であり、災害の規模や状況に応じた配備を行い、臨機応変に対応する。

【災害発生時の組織編成例】

班名等	役割分担	主担当部局等
本部長	危機対策本部の総括	学長
副本部長	本部長の補佐	副学長
総務班	<ul style="list-style-type: none">・対策本部の運営・関係機関との連絡調整・職員の動員指令・避難、救出、救援、救護等の検討・調整	総務・財務課
情報班	<ul style="list-style-type: none">・報道発表、報道機関への情報提供・報道提供資料の収集・報告・記録・職員への情報提供	企画・地域連携課
調整班	<ul style="list-style-type: none">・学生の安全確認、避難、救出、救援、救護等の検討・調整・授業開講等の調整・検討・学生への情報提供	学務課

(2) 被害に関する情報の収集・伝達等

1) 避難指示

余震等の状況や学内の被害状況を踏まえながら、避難場所への集合を指示する。
避難場所については、別紙5を参照のこと。

2) 被害情報の収集・伝達等

事務局各課は、学内外の本学関係施設の被害情報（人的被害、物的被害）を収集し、危機対策本部へ伝達する。

情報班は、TVやラジオ、インターネット等により、周辺地域の被害情報（余震の発生状況、交通機関の被害状況等、地域内の全般的な被害状況を収集し、危機対策本部へ伝達する。

なお、災害時には福知山市から「防災無線」・「防災アプリ」を通して緊急災害情報が発信される。

3) 被害情報の共有・分析、緊急対策の検討等

危機対策本部は、学内外の被害情報を共有した上で、本学の被害状況を踏まえ、何よりも人命救助、安全確保を第一に、緊急に必要とされる対策を検討する。

4. 緊急対策の実施

(1) 学内の安否確認・避難誘導・人命救助等

教職員は、複数名によりチームを編成し、自分自身の安全確保を優先しながら、構内にいる人を避難誘導するとともに、負傷者の探索、人命救助を行う。

負傷者を発見した場合は、安全な場所へ移動させて応急措置をする。

必要に応じて、救急車を要請し、到着するまで応急措置（身近にあるもので行う応急措置は、別紙6参照）を続ける。意識がある場合は声をかけて励ます。緊急時AEDを使用することも、想定される。（AEDの設置場所は、別紙5参照）

教職員は、学生及び教職員の安否情報、救助情報について、適宜、危機対策本部へ伝達するとともに、必要に応じて増援を要請する。

学生は学務課に、教職員は総務・財務課に自身の安否について、報告する。

【災害発生時の人命救助等の役割分担例】

担当課等	人命救助等の役割分担
総務・財務課	1号館→学生食堂→グラウンド
企画・地域連携課	2号館→5号館→グラウンド
学務課	3号館→4号館→グラウンド

【救急車が必要なときの119番通報要領】

消防署	通報者
○「119番消防です。火事ですか？ 救急ですか？」	●「救急です。」
○「住所（場所）はどこですか？」	●「福知山公立大学です。福知山市字堀 3370です。」
○「どうしましたか？」	●「ケガ人がいます。」 ●「具合が悪いです。」
○「あなたのお名前は？」	●「〇〇課の〇〇〇〇です。」
○「今かけている電話番号は？」	●「〇〇-〇〇〇〇です。」
○「今、救急車が向かっています。」	●「了解しました。」

【通報の際のポイント】

- 119番を通報するときは、『あわてず、ゆっくり、はっきり』と通報する。
- ケガをしている人、具合の悪い人の『年齢、性別、ケガの程度、意識の有無』をできるだけ詳しく教える。
- 消防から電話がくる場合があるので、落ち着いて応答する。

【夜間救急対応医療機関】

①市立福知山市民病院

・住所：福知山市厚中町231 ・電話番号：0773-22-2101

②京都ルネス病院

・住所：福知山市末広町4-13 ・電話番号：0773-22-3550

(2) 施設・設備、ライフラインの確認等

一連の学内の安否確認・避難誘導・人命救助の実施後、速やかに、総務・財務課を中心としたチームを結成し、施設・設備、ライフラインの状況について、構内点検を行って、被害状況を把握する。

1) 安全性の確認

- ①倒壊しそうなものはないか、転倒物、落下物、ガラス等の危険なものはないか確認する。
- ②電気系統に漏電等がないか確認する。漏電ブレーカーが作動している場合は、電気器具をコンセントから外し、充分に安全を確認してから復旧する。
- ③ガス配管に異常がないか確認する。「シュー」という音が聞こえる場合はガス漏れの可能性が高いので窓を開け換気する。爆発の可能性があるので換気扇は使用せず、電気のスイッチ等も使用しない。静電気のスパークにも注意する。
- ④水道管が外れたり、折れ・ひび割れなどにより漏水していないか確認する。

2) 施設の緊急措置

危険な区域は立ち入り禁止とし、二次災害に繋がる危険があるものは直ちに改善する。

(3) 学外にいる学生・教職員の安否確認

安否の確認がなされていない学生及び教職員の安否確認を行う。

学生については、学務課長を中心に確認を行う。

教職員については、総務係長を中心に確認を行う。

(4) 帰宅困難者への支援

地震の影響により、交通手段が寸断されることによって、帰宅できない学生や教職員が発生した場合には、危機対策本部において検討を行い、学生食堂やメディアセンター等を避難所として用いる。

また、福知山市からの要請を受け、又は本学の自主的な判断により、地域住民に対しても避難所として開放する。

(5) 通信連絡手段の確保等

在学生や入学予定者に対する連絡、教職員への連絡、学外からの問い合わせなど、情報の受発信に関する問題は、重要となるため、速やかな復旧を行う。

特に、学内外の関係者に対する主たる情報発信手段となるインターネットについては、速やかに復旧させる必要がある。

【通信手段】

電話・FAX、携帯電話、電子メール、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、安否確認システム

(6) 当面の学事日程、業務運営、勤務態勢の検討

一連の緊急対策終了後に、危機対策本部において、当面の学事日程（入試、定期試験、諸行事等）、業務運営（入学手続き、学位記授与式、入学式等の日程等）、職員の勤務態勢について、学内外の全体状況を把握した上で、検討を行う。

(7) 被害発生時のマスコミ対応

被害発生時における報道発表及び報道機関への情報提供については、危機対策本部において、内容、発表時期、発表方法等を決定し、迅速かつ的確な情報提供に努める。

5. 【別掲】地震により火災が発生した場合の対応

(1) 発見・通報

- 1) 火災が発生したら、大きな声で「火事だー」と叫び、付近の人に知らせ、屋内消火栓の非常ボタンを押して非常ベルを鳴らす。
 - 2) 可能であれば、協力して初期消火・通報・連絡作業を分担し、迅速に対応する。一人の場合は落ち着いて冷静に対処する。
 - 3) 消防署（119番）に火災であることを通報する。また、以下の者に至急知らせる（携帯電話の場合は、市外局番からダイヤルする。ただし、119番は市外局番不要である）。

【緊急時学内連絡先】

- ①自衛消防組織の統轄管理者 代表番号：0773-24-7100
②夜間・休日 緊急用番号：090-5463-4717
(学務課)

4) 被災者があるときは、救出して応急処置をした上で連絡する。

【火災対応のポイント】

- ・慌てないこと。
 - ・決して一人で処理をしようとしてはいけない。
 - ・当事者は、動搖している場合が多い。できれば、経験のある冷静な人に任せる方が良い。
 - ・無人中に火災が発生した場合、初期消火では鎮火しないことが多い。

火災が発生したときの 119 番通報要領

消防署	通報者
○「119番消防です。火事ですか？救急ですか？」	●「火事です。」
○「住所（場所）はどこですか？」	●「福知山公立大学です。福知山市字堀3370です。」
○「何が燃えていますか？」	●「建物です。」 ●「実験装置です。」
○「逃げ遅れた人やケガをしている人はいませんか？」	●「逃げ遅れている人はいません。」 ●「逃げ遅れている人がいます。」 ●「ケガをしている人がいます。」
○「あなたのお名前は？」	●「〇〇課の〇〇〇〇です。」
○「今かけている電話番号は？」	●「〇〇-〇〇〇〇です。」
○「今、消防車が向かっています。」	●「了解しました。」

【通報の際のポイント】

- ・ 119番を通報するときは、『あわてず、ゆっくり、はっきり』と通報する。
- ・『大学名、住所、自分の氏名』をしっかり伝える。
- ・『どこで、何が、どれくらい』燃えているか伝える。
- ・消防署から電話がくる場合があるので、落ち着いて応答する。

(2) 初期消火等

- 1) 冷静に火元を確認し、ガスなどの元栓を閉める。
- 2) 周囲の可燃物（紙、引火性薬品）をできる限り取り除く。
- 3) 衣服に火が着いた場合は、すばやくたき消すか取り除く（脱ぎ捨てる、引き裂く、床に転がって揉み消す、毛布や衣類で覆う）。それが無理な場合は、慌てずシャワーを浴びるか大声で救助を求め他人に消火してもらう（この場合は水でよい）。したがって、一緒にいる人の対応が重要である。
- 4) 消火器や屋内消火栓を使用したり、火を毛布等で覆うなどして消火を行う。その際、燃焼物に適した消火方法を選択する。
- 5) 火勢が強く初期消火が困難な場合は無理せず速やかに避難する。天井まで炎が燃え広がると初期消火の効果は期待できないので、速やかに避難する。一般的に出火から3分以内が初期消火の限度である。

(3) 避難方法

- 1) 避難する際は、できるだけ扉や窓を閉めて空気の供給を遮断し延焼を防ぐとともに、煙の流出を防ぐ。
- 2) 火災の煙には一酸化炭素や塩化水素など有毒な物質が含まれている。また、温度が高く気管を火傷しやすいため、吸い込まないように注意する。
- 3) 避難する際は扉を閉め、煙の流れと反対方向の避難経路を選択する。また、煙を吸引しないように姿勢を低くし、濡れたハンカチ等で口・鼻を覆う。煙で視界が悪い場合は、壁に手をあてて方向を確認しながら避難する。
残っている者がいないか確認し、防火扉、防火シャッターを閉めて防火・防煙を行う。排煙装置がある場所では必要に応じて排煙を行う。
階上から避難する場合は非常階段や緩降機を使用し、エレベーターは使用しない。
貴重品を置き忘れた場合でも決して火災現場に戻らない。
- 4) 非常階段へ続く非常扉は施錠されているが、緑色（半透明）のカバーを割って解錠すれば開くので、そこから外へ避難できる。

震度階級の状況

震度階級	状　　況
0	・人は揺れを感じない。
1	・一部の人が、わずかな揺れを感じる。
2	・多くの人が揺れを感じる。 ・眠っている人の一部が目を覚ます。 ・電灯などの吊り下げものがわずかに揺れる。
3	・ほとんどの人が揺れを感じる。 ・棚にある食器類が音を立てることがある。 ・電線が少し揺れる。
4	・かなりの恐怖感がある。 ・眠っている人のほとんどが目を覚ます。 ・座りの悪い置物が倒れることがある。 ・自動車を運転していて、揺れに気づく人がいる。
5 弱	・多くの人が身の安全を図ろうとする。 ・棚にある食器類、本棚の本が落ちることがある。 ・家具が移動することがある。 ・木造住宅のうち、耐震性の低いものでは壁や柱が破損するものがある。
5 強	・非常な恐怖を感じる。 ・棚にある食器類、本棚の本の多くが落ちる。 ・たんすなどの重い家具が倒れることがある。 ・変形によりドアが開かなくなることがある。
6 弱	・立っていることが困難。 ・固定されていない家具の多くが移動、転倒。 ・木造住宅のうち、耐震性の低いものでは、倒壊する住宅がある。
6 強	・立っていることが出来ない。 ・はわないと動くことが出来ない。 ・固定されていない家具のほとんどが移動、転倒。 ・戸が外れることがある。 ・補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。 ・木造住宅のうち、耐震性の低いものでは、倒壊する住宅が多い。
7	・揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。 ・ほとんどの家具が大きく移動する。 ・ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する。 ・補強されているブロック塀も破損するものがある。

エレベーター非常時マニュアル

- 学内に設置されているエレベーターは、震度3程度以上の地震や停電が発生した場合、最寄りの階で自動停止するので、安全を確認しながら降りてください。
- 非常時はエレベーターを使用せず、階段等で避難してください。
- 万が一、エレベーター内に閉じ込められた場合は、非常ボタンを 3秒以上 押し続けると1号館事務局及びメディアセンター内事務局と通話できますので、状況を知らせてください。
 - ・故障の状況
 - ・エレベーター内の人数及び状態
 - ・通報者の氏名等



- 室内は通気性があるので酸欠になることはありません。また、ワイヤーが切れたり外れた場合でも、安全装置が働くため危険はありません。
- 本学建物は耐震構造となっており、安全度が高い建物です。慌てずに落ち着いて冷静な対応をしてください。

安否確認システムの運用方法と学内体制

【安否確認サービスの運用方法】

【震度5強以上の地震発生時】

- ①全国で震度5強以上の地震が発生した場合、セコム災害監視センターから管理者※1へ通知される。
- ②セコム災害監視センターから登録者（教職員及び学生）へ、安否確認メールが一斉に送信される。
なお、災害の発生した都道府県に居住地（実家）、勤務地（下宿先）を登録している該当者にのみ安否確認メールが送信される。
- ③管理者から安否報告確認者※2へ、安否確認メールを送信された旨の連絡をする。
- ④登録者は、安否確認システムのサイトにログインし、報告する。
報告方法は、P. 13を参照のこと。

【大雨等その他災害発生時】

- ①管理者の判断により手動にて安否確認メールを送信する。
 - ・第1送信者（総務・財務課長）
 - ・第2送信者（学務課長）
 - ・第3送信者（企画・地域連携課長）

※第1送信者が被災している場合は、第2もしくは第3送信者が送信する。
- ②登録者へ安否確認メールが一斉に送信される。
- ③管理者から安否報告確認者へ、安否確認メールを送信された旨の連絡をする。
- ④登録者は、安否確認システムのサイトにログインし、報告する。
報告方法は、P. 13を参照のこと。

※1「管理者」とは、総務・財務課長、学務課長、企画・地域連携課長を指す。

※2「安否報告確認者」とは、以下の職員を指す。

学生の安否報告確認者	第1確認者 学生支援係職員	第2確認者 学生支援係長	第3確認者 キャリア支援係長
職員の安否及び出勤可能確認者	第1確認者 総務係長	第2確認者 財務・研究支援係長	

※第1確認者が被災している場合は、第2もしくは第3確認者が対応する。



【安否報告の確認方法】

- ・安否報告確認者は、管理者からの上記③メール受信から10分以内に、学内メールにて第1回目の集計結果を報告する。第2、第3確認者等関係者にもCCにて連絡する。メール報告案文は、P. 12を参照のこと。
- その後、上記③メール受信から、30分、1時間、2時間毎に報告する。ただし、管理者から報告時間を指示された場合は、その指示に従う。
- ・第1確認者からの第1回目集計結果メールを確認できない場合は、第2もしくは第3確認者が報告をする。

【災害情報の把握と報告】

学生安否状況確認	学務課長
職員安否状況確認 & 出勤可能確認	人事係長



【全体の災害状況の集約と報告】

- | | |
|------------------------|-------------|
| ・全体の安否状況確認と
指示状況の把握 | 総務・財務課
長 |
|------------------------|-------------|

【学生の災害状況と休校等判断】

- | | |
|---------------------------|----------------|
| ・学生の安否状況の報告
・休校等の対応の相談 | 学生委員長
教務委員長 |
|---------------------------|----------------|

- ・学務課長を中心に学生への避難指示、休校等の対応を行う。
- ・人事係長は、職員の安否、出勤可能の有無等を確認する。



【学長へ報告と危機対策本部の設置】

学長は、災害レベルにより危機対策本部を設置するか否かを判断する。



【危機対策本部設置時の措置】

- | |
|--------------------------------|
| ・危機に係る状況の収集、整理と分析
を行う。 |
| ・危機に係る対応方針の決定及び対策
の指示を行う。 |
| ・危機に係る関係部局及び関係機関と
の連絡調整を行う。 |
| ・危機に係る情報公開及び報道機関へ
の対応をする。 |

【設置しない場合】

- | |
|-----------------------------|
| ・関係する部局で対応し経過を理
事長に報告する。 |
|-----------------------------|

【管理者へのメール等報告文案】

To : 学務課長
From : 学生支援職員
CC : 教務職員、キャリア支援職員
本件 : ○月○日発生 ○○地震について学生安否確認状況
本文 :
学生安否確認状況 ○時○分現在
対象者数 ○人
応答数 ○人
安全 ○人
軽傷 ○人
重傷 ○人
応答のみ ○人
未確認数 ○人 ※未登録者は対象者数に含まれない。

【安否確認システムへのログイン及び報告方法】

- セコム安否確認サービス（株）が運用する「安否確認システム」を活用する。
ログインのためのユーザーID、パスワード等は以下のとおりである。
企業コード : 16673
ユーザーID : 各教職員番号及び学籍番号
パスワード : 各自設定したパスワード
- 報告方法の詳細は、P. 13を参照のこと。

災害用伝言ダイヤル 171

- 全国どこからでもメッセージを録音・再生。
- 災害による緊急時の連絡や安否の確認がスピーディー。
- 1 メッセージあたり 30 秒まで録音可能。
- 公衆電話はもちろんのことダイヤル回線でも OK。
- 携帯電話、PHS からもご利用可能。

地震や大雨などの災害発生時には、特定の地域への電話連絡の殺到が予測されます。

災害用伝言ダイヤルは、被災地への通話がかかりにくい状態[ふくそう状態]になった時、被災地内の家族、 親戚、知人などと安否の確認や緊急連絡を取れるようにするものです。

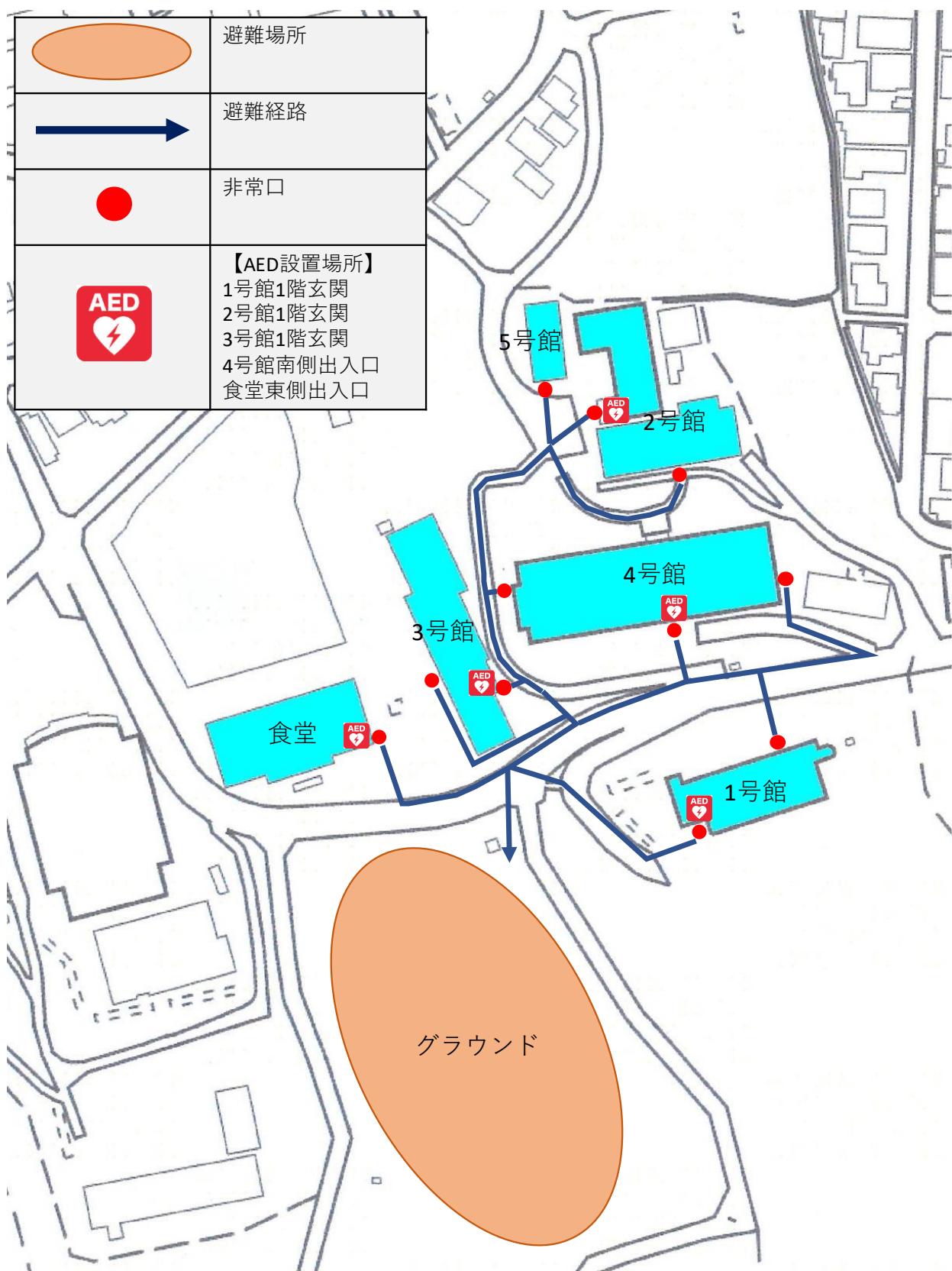
災害伝言ダイヤルの提供開始や録音件数などはテレビ・ラジオ等でお知らせします。

*ご利用料金は、被災地までの通話料となります。

操作方法

メッセージを録音	メッセージを再生
伝言ダイヤルセンタにダイヤルします。 171	伝言ダイヤルセンタにダイヤルします。 171
録音は 1 *暗証番号を利用する録音は 3	再生は 2 *暗証番号を利用する再生は 4
被災地の方はご自宅の電話番号をダイヤル 被災地以外の方は、被災地の方の電話番号をダイヤル 000-000-0000	
*市外局番が同じ被災地の場合でも <u>市外局番からダイヤルしてください。</u>	
▼	▼
▼	ブッシュボタン式電話機 1#
▼	▼
回転ダイヤル式電話機 録音	録音
▼	▼
▼	9#
▼	▼
終了	終了
▼	▼
▼	ブッシュボタン式電話機 1#
▼	▼
回転ダイヤル式電話機 再生	再生
▼	▼
▼	9#
▼	▼
終了	終了

避難経路図・AED設置図



身近にあるもので行う応急措置

1. キズの閉鎖湿潤療法（ラップ療法）

- (1) 傷を水でよく洗う。消毒はしない！ガーゼを当てない！
- (2) 拭き取って、傷を被うように少しだけ大きめのラップをあてて、縁をテープで留める。可能ならどこかに隙間を残しておく。ワセリンを塗ると痛くない。
- (3) 翌日から毎日傷を水洗いし、ラップを交換する。夏場など発汗の多い季節は日に1-2回程度繰り返す。



台所用ラップと医療用粘着テープのマイクロポア™を使用

2. 骨折に対する応急措置

(1) 骨折部位の確認

- 痛いところを聞きます。
- 可能であれば痛がっているところに変形や出血がないか確認します。

ポイント

- 骨折部位を確認する時は、痛がっているところを動かさない。
- 骨折の疑いがある時は、骨折しているものとして手当てる。

(2) 固定

- 協力者がいれば骨折しているところを支えてもらいます。
- 傷病者が支えることができれば、自ら支えてもらいます。
- 副子をあてます。
- 骨折部を三角巾などで固定します。

ポイント

- 固定に使用するものは骨折部の上下の関節が固定できるものを準備する。



▲腕の固定



▲三角巾などで腕をつる

●身近にあるものを利用する。



▲雑誌を利用した前腕部の固定



▲ダンボールを使用した下肢の固定

3. 直接圧迫止血法

- (1) 出血部位を確認します。
- (2) 出血部位を圧迫します。

●きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて傷口に当て、その上を手で圧迫します。

●大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら、圧迫止血をします。



新しい市民心肺蘇生の流れ

倒れた人が意識も呼吸もない

大声で叫び応援を呼ぶ
119番通報・AED依頼

ただちに
胸骨圧迫を開始

強く

速く

絶え間なく



AEDによる電気ショックが

必要な場合

ショック1回
その後ただちに
胸骨圧迫を再開

必要ない場合

ただちに
胸骨圧迫を再開

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者が
普段通りの呼吸をはじめるまで続ける